

第6回 筑後川学識者懇談会 議事要旨

日 時：令和元年6月25日（火）10：00～11：30

場 所：国土交通省筑後川河川事務所 第1会議室

出席者：（委 員）：楠田委員長、古賀委員、小松委員、駄田井委員、松井委員

（以下○：委員意見）

（事務局）：筑後川河川事務所長 他

（以下●：事務局発言）

議 事

議事1) 筑後川水系ダム群連携事業の事業再評価【資料-1】

・事務局より資料説明

（主な質疑）

○導水先は、小石原川ダムの貯水池上流では考えていないのか。

●現計画の放水地点である佐田川よりさらに高低差が生じるため、そこまでの導水は行わず、江川・寺内・小石原川3ダムとの総合運用による効果発現を考えている。

○H29.7 九州北部豪雨の被災状況を踏まえた導水ルート選定を実施することであるが、導水事業であることから地表面の地質構成等は影響しないのではないか。

●中継井等は、地表面に構築される施設であるため考慮すべきと考えている。また、地質が脆弱なところへ圧力管が埋設されることに対し、地元が不安視していることから、地質調査を踏まえながら導水ルートの検討を行っていく。

○本川での取水のタイミング及びダムへの貯水ルールは決まっているのか。

●検討しているが決まっていない。

○本懇談会による審議の結果、本事業について、対応方針（原案）のとおり『事業を継続する』とする。

議事 2) 近年の出水状況を踏まえた対応について【資料-2】

・事務局より資料説明

(主な質疑)

○佐田川については、上流の寺内ダムの利水容量に空きがあったため、結果的に洪水を貯留することができたが、大きな被害を受けなかったからといって優先度を下げるのではなく、寺内ダムの再開発を含めて検討を実施すべき。

●佐田川を含む支川において計画規模を大幅に上回る降雨が頻発するなどの近年の状況を踏まえ、整備計画に記載されている整備の目標や内容について、見直しの必要性の点検を行う。